

トップアスリート就職支援 JOC「アスナビ」説明会 2年ぶりに対面形式で開催

経済同友会は10月13日、日本オリンピック委員会（JOC）と連携し、トップアスリートの就職支援ナビゲーション「アスナビ」説明会を開催した。14回目となる今回は2年ぶりの対面形式で行われた。アスリート採用実績のある企業の事例紹介のほか、5人の学生アスリートによるプレゼンテーションと座談会、情報交換会を実施し、就職に向けて参加企業にアピールした。



星野 一郎

日本オリンピック委員会（JOC）専務理事



中村 裕樹

JOCキャリアアカデミー事業ディレクター



大西 賢

経済同友会 東京オリンピック・パラリンピック2020委員会 委員長

の座談会を行った。参加した企業採用担当者にアスリートの魅力や人となりを知ってもらう機会となった。

◆挨拶

アスリートが安心して競技を続行できる環境をアスナビでつくる

大西 賢 東京オリンピック・パラリンピック2020委員会 委員長

アスナビは2010年から続いています。2年ぶりにリアルで開催でき、とても期待しています。本日登壇するアスリートの皆さんはとても緊張しているかと思いますが、極限までに緊張するとその先はリラックスできるはずですよ。

東京2020オリンピック・パラリンピックはさまざまな課題もあったと思いますが、振り返ってみれば、素晴らしい感動をもらいました。オリンピック・パラリンピックはこれからも続いていきます。その舞台上で活躍するアスリートたちが安心して競技を続行できる環境を、このアスナビでつくっていききたいと思います。ぜひご協力をお願いいたします。

■「アスナビ」とは...

就職を希望している現役トップアスリートと企業のマッチングをする、JOCによる無料の就職支援制度。経済同友会では2010年のスタート時より会員企業への説明会を開催し、積極的に協力している。

応援することが、大きな力に チームジャパンとして支援を

説明会では、星野一郎JOC専務理事が、これまでの経緯と、現在のアスリート採用実績（209社・団体が335人を採用）などを報告した。さらに、今夏開催された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会において史上最多の金メダルを獲得できたことを振り返り、「無観客ではあったが、どのアスリートも多くの方の支えがあって試合ができたことに感謝しており、本部役員として参加した私もそれを実感した」と語った。「企業もチームジャパンの仲間であり、アスリートの未来をつくっていくために、ぜひ皆さんの力でアスリートを育てていただきたい」と支援・協力を

求めた。

大西賢東京オリンピック・パラリンピック2020委員会委員長は「引き続きアスリートが安心して競技に没頭できる環境をつくってほしい」と訴えた。

また、中村裕樹JOCキャリアアカデミー事業ディレクターはアスナビに関し「アスリートの真摯^{しんし}に競技に取り組む姿勢が、企業において仕事への姿勢を学ぶことにつながるなど、アスリートと企業双方のウィンウィン^{しんし}の関係を目指すものだ」と指摘。その上で雇用条件や応援体制づくり、採用企業間のネットワーク構築などの個別事例を説明した。

続いて5人の就職希望アスリートが参加企業に対して自己PRのプレゼンテーションを行い、その後、大西委員長と中村ディレクターがアスリートと



◆採用企業事例紹介

アスリート・企業双方プラスになる体制に

長谷川 泰

内田洋行
人事部辻川美乃利選手を採用(陸上競技・円盤投/2020年筑波
大学大学院修了/高等教育事業部西日本営業部所属)

2019年のアスナビ説明会で辻川選手が弊社に関心を示してくれ、一般新卒採用と同じ流れでの採用選考を行いました。面接の一方で、練習や試合の年間スケジュールや経費、活動拠点など条件を社内で確認しながら検討を進めました。もともとアスリート向けの雇用制度はありませんでしたので、競技時間も仕事とみなす、経費は福利厚生費に予算を組んでサポートするなど雇用条件を詰めて採用に至りました。

大阪支店の営業部に所属し、主に営業部員の支援業務に就いてもらっています。まずは営業部から大阪支店全体、そして会社へ、グループ全体へとファンを増やし影響力を広げていくというイメージでバックアップしていきたいと考えます。社内報の特集記事で認知を広げたり、社内のグループウェアに彼女専用の情報板を作り社員も自由にコメントを書けるようにしたりしています。

選手は日々苦しみ、高い目標を決

めて試行錯誤を繰り返して競技に取り組んでいます。こうした挑戦し続ける競技者としての精神と、社会課題を解決しようとする内田洋行の企業風土が合致すると思っています。全社で辻川選手を応援することを通して、グループ社員全員の連帯感を醸成したいと考えています。引退後もその力をビジネスパーソンとして発揮してくれると期待しています。



プレゼンテーションを行ったアスリート

JOCエリートアカデミーで学んだ人間力で成長



伊藤 洸輝 (いとう ひろき)
水泳/飛込

●1999年生まれ。神奈川県出身。2022年3月、日本大学文理学部体育学科卒業見込み。●2020年日本室内選手権水泳競技大会高飛込シンクロ優勝、3m飛板飛込2位、2020年第96回日本学生選手権水泳競技大会3m飛板飛込優勝、2021年第32回オリンピック競技大会(2020/東京)高飛込シンクロ8位

私は味の素ナショナルトレーニングセンターなどで練習に励む中で、チームを代表して試合に出る責任感、どんな苦難に直面しても自分で考え工夫し解決する問題解決能力、諦めない忍耐力を培ってきました。そしてJOCエリートアカデミーで学んだことが自分の人間力を成長させたと考えています。「真っ直ぐ自分の言葉は曲げない」が私のモットーです。

十種競技で培った力は学業との両立にも活かされた



田上 駿 (たうえ しゅん)
陸上競技

●1997年生まれ。兵庫県出身。2022年3月、順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科修了見込み。●2017年第86回日本学生陸上競技対校選手権大会優勝、2018年第87回日本学生陸上競技対校選手権大会2位、2020年第104回日本陸上競技選手権大会(混成競技)3位、2021年鹿児島県陸上競技記録会日本GPシリーズ対象大会2位。日本歴代8位・日本学生歴代3位

私は十種競技という種目の特徴を通して、物事を多面的に考え判断する能力を身に付けるとともに、効率よく物事に取り組むために時間の使い方を工夫してきました。このことは競技と学業を両立させるためにも非常に役立ちました。今後も目標に向かって前進し続けるアスリートとしての姿をお見せし、社会人として皆さまに勇気や感動を与えられるような選手を目指します。

どんな環境でも集中して取り組み、より高い成果を



松井 隆太 (まつい りゅうた)
テコンドー

●1999年生まれ。埼玉県出身。2022年3月、日本体育大学体育学部体育学科卒業見込み。●2019年千葉ワールドテコンドーグランプリ選考会優勝、2019年Ready Steady Tokyo Test Events準優勝、2020年全日本テコンドー選手権大会優勝、2021年全日本テコンドー選手権大会優勝

幼い頃から年上で自分より体の大きい選手と練習してきたため、どうすれば勝てるのか、常に物事を分析し、工夫を重ねる習慣ができました。練習時間が確保しにくかった高校時代は、早朝4時からの練習を毎日続けたことも成長につながりました。どんな環境でも集中して取り組み、より高い成果を発揮するために、日々考え行動しています。多くの方々から応援していただけるよう頑張ります。

目標は応援されるアスリート社員であることと会社への貢献



増田 陽人 (ますだ よひと)
フェンシング

●1999年生まれ。岡山県出身。2022年3月、早稲田大学商学部商学科卒業見込み。●2019年ジュニアワールドカップ・東京大会個人2位、2019年アジアジュニア選手権大会団体3位、2019年全日本フェンシング学生王座決定戦優勝、2019年第72回全日本フェンシング選手権大会団体戦2位

私の目標は社内で応援されるアスリート社員であること、高い生産性で会社に貢献することです。私は今まで二つ以上のことを同時に行うため常に計画を立て、集中力と発想力を持って行動してきました。また、大学の商学部で学んだ分析力を競技に活かし、成果を出し続けてきました。こうした私の強みが仕事においても役立つと考えています。

周到な準備と正確な状況把握が私の強み



松津 秀太 (まつづ しゅうた)
スケート/ショートトラック

●1999年生まれ。埼玉県出身。2022年3月、阪南大学経営情報学部経営情報学科卒業見込み。●2019年2019世界ジュニアショートトラックスピードスケート選手権大会500m11位、3000mリレー4位、2019年第74回国民体育大会冬季大会スケート競技会500m優勝、2019年第29回ユニバーシアード冬季競技大会(2019/クラスノヤルスク)1000m4位、5000mリレー4位、2019年第92回日本学生氷上競技選手権大会(ショートトラック)3000m優勝

私の強みは二つあり、一つは課題に対してさまざまなパターンを想定して目標達成のための周到な準備ができること。全て事前準備で結果が決まります。もう一つは適切な判断のために周りの状況を正確に把握できること。駆け引きが重要な競技において、視覚情報だけでなく相手の思考も踏まえて判断することで有利にレースを運びます。そのために私は、日常から物事の観察を心掛けています。

その他の就職希望のアスリート (2021年11月1日時点)

※(年齢)はアスナビ説明会開催日(2021年10月13日)時点

オリンピックを目指すアスリート▶▶▶	池田 旭佳瑠 (27歳) 陸上競技(三段跳)	大玉 華鈴 (21歳) 陸上競技(七種競技)	郡 菜々佳 (24歳) 陸上競技(砲丸投・円盤投)
相原 大聖 (26歳) 陸上競技(やり投)	岡崎 一輝 (23歳) 陸上競技(円盤投)	赤羽根 康太 (23歳) 水泳/競泳	宮本 一平 (22歳) 水泳/競泳
中島 涼 (22歳) 水泳/競泳	板橋 美波 (21歳) 水泳/飛込	富田 せな (22歳) スキー/スノーボード	富田 るき (19歳) スキー/スノーボード
福嶋 春花 (22歳) スキー/フリースタイル	鈴木 歩佳 (22歳) 体操/新体操	海野 大透 (21歳) 体操/トランポリン	野村 綾之介 (22歳) 体操/トランポリン
齋藤 駿 (22歳) スケート/ショートトラック	重弘 喜一 (22歳) スケート/ショートトラック	山名 里奈 (21歳) スケート/ショートトラック	入江 ゆき (29歳) レスリング
長谷川 敏裕 (25歳) レスリング	渡部 雄貴 (26歳) セーリング	大黒田 裕芽 (27歳) ラグビー	本間 大晴 (22歳) スポーツクライミング
井上 暉央 (25歳) カーヌー/スプリント	佐田 野 (33歳) カーヌー/スプリント	桑江 良斗 (21歳) アーチェリー	中西 絢哉 (22歳) アーチェリー
宿谷 涼太郎 (26歳) カーリング	岩井 真幸 (36歳) カーリング	甲斐 瑠夏 (21歳) トライアスロン	渡部 晃大朗 (27歳) トライアスロン
金子 慶輝 (24歳) ボブスレー	パラリンピックを目指すアスリート▶▶▶	戸篠 星願 (23歳) パラ水泳	

■お問い合わせ

アスナビに関するお問い合わせや、選手との面談希望、その他アスリートの就職支援をお考えの方は右記までご連絡ください。
なお、お問い合わせの際には「経済同友会の会員」の旨をお知らせいただくとスムーズです。

公益財団法人日本オリンピック委員会 JOC キャリアアカデミー事業

担当：中村 (h-nakamura@joc.or.jp)

長谷川 (o-hasegawa@joc.or.jp)

電話：03-5963-0354

※電話受付時間は午前10時から午後6時まで